

ほほえみ



桐生厚生総合病院

(編集 院外広報編集委員会)

〒376-0024 群馬県桐生市織姫町6番3号
TEL:0277-44-7171(代) FAX:0277-44-7170
URL: <http://www.kosei-hospital.kiryu.gunma.jp/>



基本理念

命を育み、病を癒す、安心で最良の地域医療

基本方針

1. 私たちは、患者さんの命を守り、健康回復とその増進を責務とし、地域医療の充実と発展に努めます。
2. 私たちは、患者さん及びご家族の思いを受け止め、分かりやすい質の高い診療に努めます。
3. 私たちは、説明と同意を大切にするチーム医療の推進に努めます。
4. 私たちは、地域医療機関との良好な連携強化に努めます。
5. 私たちは、弛まぬ研鑽と実践的な研修に努めます。
6. 私たちは、今後も地域基幹病院として、医療施設や職場環境の整備、効率的で健全な病院経営に努めます。

放射線治療装置更新

—地域の皆様に最高精度の放射線治療を—

副院長兼放射線科診療部長 たか はし みつ ひろ 高橋 満 弘
放射線科診療部長 むら まつ ひろ ゆき 村松 博 之

この度、念願の放射線治療装置の更新がかないVarian社製のTrueBeamが導入される事となりました。現時点での最新機種であり機械の性能としても最高峰に近いものとなっています。

放射線治療とは文字通り“放射線を用いたがんの治療”です。“がん”は頭から足の先までどこにでも発生し、あらゆる診療科で扱われる疾患ですが、ほぼ全ての“がん”に対して何らかの形で放射線治療が用いられます。放射線治療は装置が高価であることや、専門知識・技能をもった医師・診療放射線技師が必要な事から、全ての病院に配置できるものではありませんが、当院での放射線治療の歴史は古く、1969年から放射線治療が行われています。桐生医療圏（桐生市、みどり市）では当院が唯一の放射線治療可能施設となっています。前回の放射線治療装置の更新は2004年でしたが、この13年で放射線治療を取り巻く環境は大きく変わりました。特に2007年にがん対策基本法が施行され、がん医療の均てん化が叫ばれてからは、放射線治療の必要性が広く知れわたるようになりました。この間の急速なコンピューター技術の発展に伴い放射線治療装置の性能も格段と向上し、がん病巣に放射線を集中させ、周囲の正常な組織にはなるべく放射線をあてないように工夫された高精度放射線治療も多くの施設で



高精度放射線治療装置(TrueBeam)



治療操作室

行われるようになってきています。

当院は地域のがん診療を担うべく、2007年には地域がん診療連携拠点病院に指定されており、各診療科の先生方も拠点病院に相応しいがん治療に取り組んでいます。これまでの当院の放射線治療装置では高精度放射線治療を行うことができませんでした。そのため高精度放射線治療が必要な患者さんには他の医療圏まで出向いていただくこととなり、大変なご不便をおかけしていました。今回導入される放射線治療装置は現時点での最新機種であり、現在行われている高精度放射線治療にはほぼ対応できます。これからは当院でも前立腺がんや耳鼻科領域のがんに対するIMRT(強度変調放射線治療)やIGRT(画像誘導放射線治療)、脳腫瘍などに対する定位放射線治療が可能となります。5月連休明けからの稼動を予定しています。

高エネルギーX線を用いた高精度放射線治療技術はおそらく現在の方法がこのまま継続され、次世代の放射線治療と目される粒子線治療が汎用化されるにはまだまだ時間がかかると予測されます。次回の機器更新までの間は、地域の皆様には“標準的”でかつ最高精度に近い放射線治療を提供できるものと考えています。

がん薬物療法

泌尿器科診療部長 おか もと こう へい 岡本 亘平



がん細胞は、できる部位や悪性度などで様々な性質があり、それに合わせた薬剤が使用されます。しかし抗がん剤のみで治癒できる可能性のあるがんの種類は、血液がんの一部や精巣がんの一部等に限られています。手術や放射線と組み合わせて治癒や、生存率を向上させることができるがんとして、乳・胃・食道・大腸・頭頸部・直腸・膀胱・卵巣がん・骨肉腫等があります。その他多くのがんは、抗がん剤のみで治癒することは困難ですが、がんの成長を抑えることでがんにつきあいながら命を延ばすことが可能となっています。

がんの薬物療法には、いわゆる抗がん剤（殺細胞薬）、ホルモン療法薬、分子標的薬、免疫療法薬があります。

いわゆる抗がん剤（殺細胞薬）は細胞分裂を阻害する薬で、細胞分裂が活発ながん細胞に効果がありますが、同時に細胞分裂が活発な正常の細胞にも影響があり、骨髄障害による白血球や血小板、赤血球の減少や、脱毛、嘔吐・便秘・下痢などの副作用が見られます。その他にも各薬

剤によって異なる副作用があります。近年は吐き気や白血球減少など副作用対策の薬剤も進歩しています。

ホルモン治療薬は、主に前立腺がんと乳がんの一部に使用される薬剤です。これらのがんが性ホルモンで成長するため、性ホルモンを抑える薬剤になります。男性・女性とも更年期障害に似たような副作用が見られます。

分子標的薬は、21世紀になってから続々と出てきている新しいタイプの抗がん剤で、がん細胞が持つ細胞増殖に必要な分子をターゲットに作成された薬剤です。増殖シグナルを受け取る受容体をブロックする薬剤や、腫瘍の周りにできてきてしまう血管新生を阻害する薬などが発売されています。副作用は薬剤ごとに違いますが、高血圧や皮膚障害など殺細胞薬とはまた異なります。

免疫を担当する細胞（ナチュラルキラー細胞やTリンパ球など）には、がんを攻撃する効果を持つものがあり、従来の免疫療法は、これらの細胞を強化するような薬剤を用いていました。Tリンパ球には、自分の細胞を攻撃しないようにブレーキの役割をする機構があります。がん細胞は、このブレーキを作動させる物質を細胞表面に持っており、そのためTリンパ球が思う存分実力を発揮できないことがありました。近年新しく出た免疫チェックポイント阻害薬というタイプの薬剤は、このブレーキに蓋をすることでTリンパ球が十分に働けるようにする薬剤です。副作用は比較的少ないですが、免疫が過剰に働いて自分を攻撃してしまう病気が起こることが時にあります。

良い薬剤が出てくることで、がんを抱えながらも患者さんが長生きできるようになり、また外来通院での治療が可能になってきています。一方自宅で過ごす時間が長くなる分、患者さん自身が治療の意味や、薬剤の副作用をしっかりと理解していただくことが、スムーズに治療を進めていく上では重要となってきます。そのために薬剤師や看護師も治療に関わります。高価な薬剤も多いので、ソーシャルワーカーなども含め多職種で協力しながら患者さんをサポートする体制を作るようにしています。



放射線科 技師長 補佐	放射線科 診療部長	泌尿器科 診療部長	副院長兼 放射線科 診療部長
磯 昌宏	村 松博之	岡 本巨平	高 橋満弘

市民公開講演にて



桐生市堀マラソン大会への支援

THE 63 TH KIRYU HORI MARATHON



第63回桐生市堀マラソン大会が平成29年2月12日(日)に開催されるにあたり、実行委員会委員長（事務局：桐生市教育委員会）から不慮の事故への迅速な対応など、安全な大会に向けて救急医療体制の充実を図りたいと協力要請がありました。職員に協力を依頼したところ、57人の協力を得られ、医師・看護職員が背部にドクター・ナースランナー用ナンバーカードを付けて走りました。また、その他職員も20人が参加しました。



ドクター・ナースランナーの紹介

大会総参加者数 9,056人

当院の参加者

ドクターランナー(医師) 19人

ナースランナー(助産師、看護師) 38人

その他職員 20人

第16回

ハッピー健康相談室

皆さまが、日頃疑問に思っていること、困っていることを気軽に相談できる場所として、ハッピー健康相談室を開催いたします。

皆さまお誘い合わせのうえお越しください。

日時 平成29年6月12日(月) 14:00～16:00

内容 ①知って得する肝臓のはなし

なみかわ まさし
担当：内科診療部長 竝川 昌司

②肝臓にいい食べ物 ～しじみって本当にいいの?～

こばやし まこと
担当：管理栄養士 小林 誠



■ 場 所：桐生厚生総合病院 1階正面玄関脇 情報コーナー

■ 参加費：無料(事前申し込み不要)

■ 駐車場：無料(桐生厚生総合病院の駐車場をご利用ください)

■ 問い合わせ先：地域医療連携室 TEL0277-44-7150

※外来診療担当医表はホームページ内で公開していますので省略いたしました。